

議 事 概 要 書

令和 7 年度第 6 回玉野市地域公共交通会議

開 催 日 時	令和 8 年 1 月 13（火曜日）10 時から 12 時まで
開 催 場 所	玉野市役所 3階 大会議室
出 席 委 員	玉野市地域公共交通会議委員 18 名（欠席委員 3 名） 玉野市地域公共交通会議専門員 6 名（欠席専門員 1 名） 事務局 3 名 発表者・関係者 1 名
傍 聴 の 可 否 (非公開の理由)	可
傍 聴 人 数	4 名
議 事 次 第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 （1） 地域内フィーダー系統の事業評価（案）について （2） 地域間幹線系統の事業評価（案）について （3） 地域公共交通体系の最適化に向けた取組等について （4） その他 4 閉会 詳細は、別紙のとおり
特 記 事 項	無
事 務 局	玉野市協働・交通政策課 電話 0863-32-5567

(別 紙)

令和 7 年度 第 6 回玉野市地域公共交通会議 議事要約書

<議事>

(1) 地域内フィーダー系統の事業評価(案)について

- ・事務局より、資料 1 について説明

→原案通り承認(中国運輸局提出時の軽微な修正は事務局に一任)。

(2) 地域間幹線系統の事業評価(案)について

- ・事務局より、資料 2 について説明
- ・交通事業者(両備ホールディングス株式会社)より今期の評価に係る現状や今後の改善点など、補足説明

路線の特徴と現状:

運行系統: 5 つ路線がある中で、大きく分けると 2 系統に大別される。

たまの病院もしくは宇野駅を起点にして東児〜岡山市小串〜岡山駅を結ぶ「小串鉾立上山坂線」と、国道 30 号を通過して岡山市と玉野市を結ぶ「庄内・渋川・深山公園・玉野市役所線」。

利用動向: 朝夕は岡山市への通勤・通学、日中は通院や買い物の足として利用されている。

人口減少の影響から「小串鉾立上山坂線」の利用状況が特に厳しい。

対 応 策: たまの病院開業に伴う一部経路変更などを実施済み。

今後はシーバスとの最適な役割分担を含め、持続可能な運行に向けて協議・提案を重ねていく。

・質疑応答と意見交換

① 特急バス(渋川線)の扱いについて

質問(会長): 特急バス渋川線は今回の評価対象に入っているのか。

回答(両備バス): 特急バスは国や県から補助金をもらわず独立して運行しているため、今回の評価(補助金要件となる事業評価)の対象外である。

② 岡山市の計画に伴う「小串鉾立上山坂線」の運行見直しについて

質問(会長): 岡山市が進めているフィーダー交通(幹線と支線の整理)に伴い、同路線は今後どのように変わる見通しか。

回答(両備バス): 岡山市の公表計画に基づき、利用実態に合わせた以下の整理を協議中である。

朝夕（通勤通学時間帯）：市をまたぐ移動が多いため、岡山市
直通の運行を継続する。

日中（利用者が少ない時間帯）：直通ニーズが低いため、築港新町や
岡 南町近辺までの運行（支線
化）にとどめ、それより先（岡山市
内中心部）へは特急バスや岡電バス
へ乗り継いで移動する形にする。

要望（会長）：途中の乗り換えは大きな負担であり、利便性が大きく損なわれ
る。地元からも直通存続の要望が強いため、できる限り直通便
を残してほしい。需要が少ない時間帯の調整についても、利便
性を損なわないよう配慮してほしい。

回答（両備バス）：利用状況を見極めながら、必要な時間帯・箇所は直通でい
けるよう岡山市と協議を継続する。

→原案通り承認（中国運輸局提出時の軽微な修正は事務局に一任）。

（３） 地域公共交通体系の最適化に向けた取組等について

- ・事務局より、資料３について説明

- ・交通事業者（両備ホールディングス株式会社）より追加提案（当日追加資料）

東紅陽台エリアの「200 円均一運賃」導入提案

背景：運転手不足（2024 年問題等）により、シーバスを新規に伸ばすよりも既存
の路線バス（国道 30 号線）を有効活用する方が合理的である。

提案内容：東紅陽台、東高崎、宇藤木橋のバス停を新たに 200 円区間（現行 480
円程度）に組み込む。令和 8 年 10 月のシーバス見直しに合わせ実施。

課題：運賃値下げに伴う減収分（赤字拡大リスク）について、市からの差額補填
（財政支援）の検討を要望。

- ・質疑応答と意見交換

① 荘内地区における「たまの病院」へのアクセス課題（委員）

旧三井病院の廃止後、荘内地区から「たまの病院」へ乗り換えなしで行けず、
高齢者からお叱りや苦情が多く出ている。

事務局回答：現在、シータクとシーバスの基本ルール（乗り換え原則）の特例
として、荘内地区から直接たまの病院へ行けるシーバスの路線・
ダイヤを検討中。実証実験を含め早期対応に努める。

②市民ニーズの把握・アンケート調査（西日本旅客鉄道株式会社）

計画改定にあたり、市民の移動ニーズ（特に岡山市内への通勤・通学、買い物需要など）を把握するアンケート調査やヒアリングは実施するのか。

事務局回答：今後の計画策定に向けて、アンケート調査等は必須のプロセスとして今後必ず実施する。

③市内全域の「200 円均一運賃化」について（委員からの提案）

市内どこでも 200 円で行けるようにすべきではないか。

事務局・交通事業者・運輸支局回答：

一律 200 円にすると事業者の運賃収入が下がり、国の補助金の算出式（平均乗車率）にも悪影響を及ぼし、補助金対象外となって市の財政負担が逆に増える（路線の維持困難につながる）スパイラルに陥る懸念がある。一律化はハードルが高く、慎重な検討が必要。

→原案通り承認。

（４） その他

シータクの車両運用の柔軟化について（事務局説明）：

現在のシータク運行において、ワゴン車が不要で普通車のみで対応できる状況が散見される。

今後は「ワゴン車 1 台・普通車 1 台」といった固定的運用にこだわらず、需要に応じて普通車 2 台にするなど、柔軟かつ効率的な車両運用（合理化）を進めていく。

○総評（副会長）

玉野市は十数年前、シーバス・シータクという画期的な体系を作り出し、全国から注目される公共交通の優等生であった。

しかし、現在の事業評価「C」に表れているように、病院の移転、急速な高齢化、人口バランスの変化により、当時のベストが今の地域状況に合わなくなりつつある。

来年度にかけて進める計画改定において、市内 200 円エリアのあり方やシーバスとシータクのバランス、鉄道や幹線バスとの接続など、根本的な最適化を議論することが重要である。委員の皆様には、ぜひ地元の声をたくさん集めて持ち寄っていただきたい。